

## 社会教育施設の自己紹介

### 【施設名】

宇都宮美術館

### 【施設概要】

宇都宮美術館は、宇都宮市制百周年を記念して 1997 年 3 月に開館しました。美術館のまわりには 26 ヘクタールの深い森と里山の風景が広がり、美術と自然を楽しむことができる滞在型の公園として一帯が整備されています。コレクションの大きな特徴は、20 世紀以降の美術作品を収集していること、そして、絵画や彫刻ばかりではなくデザイン作品も収集していることにあります。現在およそ 3200 点の作品を所蔵していますが、そのうち 67%をデザイン作品が占めており、質量ともに国内有数のデザイン・コレクションと言えるでしょう。こうした収集活動をコレクション展示で紹介するとともに、日本画や東西の近現代美術、デザイン展、地元宇都宮にゆかりのある作家の回顧展など、さまざまなジャンルの企画展を年間 5 本開催しています。また、講演会やコンサート、森を生かしたワークショップ、自然観察会などの教育普及活動にも力を入れています。

宇都宮美術館ホームページ <http://u-moa.jp>

### （写真 1：美術館外観）



### 【特色ある取り組み】

#### ①ボランティアとの協働

20 世紀以降の美術とデザイン作品、というコレクション内容は、現実的には多くの人々にとってまだまだなじみの薄い分野ではないでしょうか。その一方で、暮らしに近い「市立（2006 年度宇都宮市指定管理者受託財団）」の美術館として、気持ちのうえでアクセスしやすい場所であることが求められます。そこで、美術館と社会をつなぐ結び手として「美術館ボランティア」との協力体制作りを開館準備室時代から進めました。

現在では、2 年間の研修を受けた「作品解説ボランティア」1 期生・2 期生 21 名が毎日交代で来館

者への解説を行なっています。ボランティア1期生は開館年度に公募を行ない、1年間の継続的な研修会（月1回）と1年間の実習期間を経て、1999年度からお客様の前に立っています。15名でのスタートでした。その後メンバーが減ったことやデザイン部門での解説の強化をめざして、2002年度に2期生の公募を行ない、現在に至っています。主にコレクション展の毎日定時（火木11時と2時、水金日2時、土11時）の解説を受け持つほか、最近では学校団体の受け入れにおいても欠かせない存在となっています。

近年はアリア・アレクス氏（元ニューヨーク近代美術館エデュケーター）を招聘して研修を受けた対話型の作品鑑賞方法を取り入れ、子どもたちと美術との出会いを楽しいものにしていきます。対話型の作品鑑賞とは、これまで美術館側から一方通行的に行なわれてきた「解説」ではなく、いま、その作品の前にいる鑑賞者全員で「この絵の中で何が起っていると思う？」「それは絵のどこを見てそう思った？」などの問いかけを重ねることによって、自分たちなりの「解釈」を作り上げていく方法です。少人数で行なうほうが効果的なので、100人規模で訪れる学校団体の対応には大勢のボランティアの協力が欠かせないのです。当館では、対話型の鑑賞方法を取り入れることによって、美術館の主役は鑑賞者だということを来館者に再認識していただきたいと考えています。解説者と来館者が対等に語り合える「にぎやかな展示室づくり」を通して、来館者の主体的な「鑑賞」を引き出し、ひいては来館者が美術の世界にみずから関わっていくきっかけになればと願っています。

このほかにもDM発送や資料整理、美術館振興会会報「アートの森」の発行、自主事業開催、市内アートマップ作りなどさまざまな活動でボランティアの力が生かされています。そして発足から10年を迎える2007年度には組織の再編を行ない、さらなるパワーアップをめざしていく予定です。

#### （写真2：対話型鑑賞）



## ②ホームからアウェイへ

開館以来さまざまな教育普及事業を行なってきましたが、近年の大きな変化には、学芸員が美術館の外に出て行くアウトリーチ活動が増えてきたということがあります。2005年度から市街地での出張セミナー、学校へ出張授業を行なっています。とくに出張授業では、先生と学芸員が事前に話し合っ  
て授業内容を決めることを重視し、「年間の授業計画の中で、この時期ならではの」「この学芸員の得意テーマならではの」のユニークなものになることをねらっています。また、アウトリーチ活動の本格化に向けて、日本初の、デザイン鑑賞教育キットを製作しました。現在のキットはもっぱら学芸員が持参して授業を行なっていますが、いずれ学校の先生や一般のファシリテーターの方々にも貸し出し  
て利用していただけるようなキットを開発していきたいと考えています。

(写真3 椅子のデザインを学ぶキット)



### 【来館者の推移】

平成 13 年度 54,211 人

平成 14 年度 49,475 人

平成 15 年度 77,176 人

平成 16 年度 73,579 人

平成 17 年度 48,560 人

そして今年度は、70,000 人を超える見込みです。